

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 栄福)

事業所番号	0670801109		
法人名	ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホームまいづる		
所在地	酒田市麓字横道10-8		
自己評価作成日	令和 6年10月10日	開設年月日	令和4年 9月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、地域とのつながりを大切に、一人一人のその人らしい暮らしが出来、安全・安心・安楽に生活が送れる様に努めています。また、他ユニットとも感染対策に注意しつつ、施設近隣の散歩やお花見、紅葉狩り等ドライブと一緒にいたり、合同で敬老会を開催し、職員伴奏の三線ショーを楽しんだりして交流を深めています。協力・医療機関や歯科医等、看護師の配置もあり、連携もスムーズに行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 11月 5日	評価結果決定日	令和 6年 11月 22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内にグループホームのユニット「栄福」・「笑福」と同法人のデイサービスセンター・有料老人ホームが併設しており、利用者・職員の交流、合同避難訓練、看護師訪問などの協力関係にあります。午前・午後の体操と食前の嚥下体操には明るく大きな掛け声が聞こえ、また食欲旺盛で殆ど完食の食事と協力医・看護師・職員のきめ細かな健康管理で元気な様子の利用者が多く見られます。コロナ禍でいろいろな事を自粛していた時は外気浴や散歩などで気分転換を図っていたが、感染対策をしながら外出支援や地域との交流を増やし、これからも利用者の笑顔をたくさん見たいと前進している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームやデイルームに掲示し職員一人ひとりが意識できるようにしている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	正月には獅子舞や5月には奴振り等地区住民との交流があり、施設周辺の散歩時には、挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は、地区の小学生との交流や中学生の職場体験を実施していた。今後、再び再開できるよう、話し合いをしていく予定である。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しており、施設のサービス向上や地域との交流する機会のアドバイスをいただいている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八幡総合支所の担当者からも運営推進会議に参加していただいております。随時担当者へ相談できるように連携強化に努めている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	研修会を通して、全職員で身体拘束禁止の理解に努めている。また、利用者の帰宅欲求等の状況を傾聴しながら、身体拘束をしないで過ごせるよう配慮している。	「身体拘束等適正化委員会」を組織し、ユニット会議(2ユニット合同)時に年4回開催して内2回は内部研修も兼ねており、職員は理解して実践に繋げ「チェックシート」で自己確認している。玄関は日中開放して利用者の安全を見守り、ヒヤリハットが起きた時は見える所へすぐ書き出して共有し注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(2)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止検討委員会を設置し、定期的に委員会を開催し、高齢者虐待の発見や相談に応じたり、研修会で事例を学ぶ機会を持ち、高齢者虐待の未然防止に努めている。</p>	<p>「高齢者虐待防止委員会」は身体拘束委員会とメンバー・研修会も兼ねて開催している。職員には得意・不得意分野があって互いに協力し合う関係性で、気になる事を見たり聞いたりした時は管理者を中心に話し合い、再発防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>制度を利用している人がいないため知識として乏しい。外部研修に参加する機会を持ち、理解を深めるようにしていきたい。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に利用者や家族にわかりやすく説明を行い、理解してもらうよう努力している。</p>			
10	(3)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員が担当する利用者家族からの意見や要望を管理者に伝えたり、ユニット会議で話題にして、運営に反映できるようにしている。</p>	<p>条件付きであるが家族等との面会も可能となっている。家族等とは面会時や電話などで情報交換しながら意見要望を聞き取り、出来る事はすぐ実行している。毎月担当職員から利用者の様子を書いたお便り「生活の様子」と季節毎発行の法人合同広報紙「ちょうかい」を送付して家族等の安心を得ている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議で運営状況を説明し、職員の意見を聞き入れ改善に努めている。</p>			
12	(4)	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>必要に応じて代表者と面談をして職員の就業環境の改善を図るようにしている。</p>	<p>職員の日頃の努力しているところや勤務状況を把握して昇給・賞与に反映させて、やりがいを持って就業出来るようにしている。職員同士が話しやすく、シフト希望・有給休暇取得・急な勤務交替にもお互い様と協力し合う働きやすい職場環境となっている。</p>		
13	(5)	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員の研修の機会を把握し、働きながら研修できるよう配慮している。</p>	<p>内部研修は年間研修計画に沿ってユニット会議時に身体拘束・虐待防止委員会と兼ねて実施している。外部研修後は復命書を回覧して全員で共有し、実践に繋いでサービス向上を図っている。新人研修は先輩職員と現場で一緒にすることで学んでもらい、資格取得挑戦も奨励している。</p>	<p>コロナ禍で外部研修への参加や内部研修の機会が少なくなっていたが、職員の学べる機会を検討し、全体でのレベルアップに繋がるような取り組みに期待したい。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他市町村のグループ事業者と連携を図り、情報交換を行っている。また、地区の認知症サポート事業に参加できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談や訪問調査時に本人や家族の不安なことや要望等に耳を傾けて、答えることができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からだけでなく、施設側からも電話や面会時に相談するように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の様子や状況を観察しながら、職員全員で支援の方法を話し合う機会を設けている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、できることを一緒に行うように信頼関係を築き、自立支援に努めている。	利用者は洗濯物干しや食器拭きなどの出来る事を行っており、職員は見守りながら経験談などからコツを教わる場面もある。事業所の1日の流れはあるが自分のペースで過ごしてもらい、職員は利用者の気分に応じて声掛けを工夫しながら、傍に座ってゆっくり話をする時間を大切にしている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「生活の様子」で情報を提供したり、電話や面会時に相談を行い、本人を共に支えていくようにしている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話や生活歴の中から、本人のこれまでの生き方を把握するとともに、友人や知人の面会時に次回も面会に来ていただけるようお願いをしている。	入居時の家族等からの情報を記録し、かかりつけ医受診・美容室・知人との面会などこれまでの関係が継続出来るように支援している。毎日の生活は外気浴や散歩などで気分転換を図り、花見ドライブ・夏祭り・敬老会・手作りおやつ・地区祭見学などの恒例行事を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に家事作業やクッキングレク等を行い、関わり合いが持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所の際には情報提供を行ったり、連絡調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメントを定期的を実施するとともに、日々の関わりの中から本人の意思の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や日々の会話の中から情報収集と情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的モニタリングとアセスメントを実施するとともに、気がついたことがあった場合に、すぐに話題にできるようにしている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員と担当職員だけでなく、日常的にケアカンファレンス的な話し合いができるようにして、課題把握と介護計画の作成に配慮している。	本人・家族等から希望を聞き取り、職員全員の意見をまとめて担当職員が確認し、現状維持で健康に過ごせるようなプランをケアマネジャーが作成しており、家族等にも説明している。職員は3ヶ月毎のモニタリング(観察)と6ヶ月毎のアセスメント(情報収集)を実施し、見直しに活用している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を介護記録に残して、気になることを相談や話し合いを行い、ケアや介護計画の見直しに活かしている。	プランに沿った一日の様子や状態を午前・午後・夜間に分けて個別の介護記録に記入し、全員が確認している。職員は業務日誌に目を通してから業務に就くようにしており、重要なことは申し送り時に口頭でも確認して統一したケアが出来るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>受診の他、自宅に宿泊したり外出したり、本人の状況や家族の要望に対応するように支援したり、</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医への受診や美容室、知人の家や施設等へ出かけるなどその人なりの地域資源を把握し、支援するようにしている。</p>	/	
30		<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族送迎が基本となるが、本人や家族が希望する医療機関への受診を行い、医療機関への情報提供を行ったり、連絡を取っている。</p>	/	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が利用者の日々の健康状態の観察や服薬の管理、訪問診療時の状況報告を行うとともに、緊急の場合連絡と指示を受ける体制がとられている。</p>	/	
32	(10)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時は速やかに医療機関に情報提供を行い、連絡を取り合い、連携に努めている。また、退院後の配慮事項について、連絡や相談を行い利用者の退院後の生活を支援している。</p>	<p>週1回訪問の看護師(オンコール体制)に利用者の健康管理を依頼し、往診対応の協力医は24時間対応で安心に繋がっている。緊急搬送や主治医の紹介で入院となった場合は医療機関や家族等と情報交換しながら退院に向けて支援しており、退院後については家族等と相談している。</p>	
33	(11)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応について、入所時に説明し同意を得ている。また、利用者の状態の変化に応じた看取りについて本人や家族と相談し、方針の共有を図っている。</p>	<p>契約時に家族等に重度化、看取りについて、指針をもとに事業所が対応出来る事について説明し、意向を確認している。重度化した際には家族等と密に連絡し合い、状況を伝え、その都度方針の共有を行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備して対応している。また、防災訓練時に救急救命時の対応の訓練を定期的実施している。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。また、年2回、利用者と一緒に避難訓練を実施している。	火災・洪水と夜間を想定した避難訓練を実施し、併設の有料老人ホーム・デイサービスと合同で行っている。地域住民も非常時の連絡網に加わってもらっている。停電に備え、懐中電灯や反射式ストーブを準備している。	大雨による停電と断水を経験したことから、防災委員会を中心に話し合い、有事の際に安全に避難出来るような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ていねいな言葉使いを心がけるとともに、利用者の話を傾聴し、利用者一人ひとりの性格や症状に合わせた対応ができるように日々話題に出すようにしている。	利用者の個人情報の漏洩防止やプライバシーの確保について、職員は入職時に誓約書を交わしている為、順守されている。利用者の人格やプライドを損ねないように、職員は話し方や対応について常に心掛けている。気になる言動などがあった場合は申し送りの時に職員間で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的なコミュニケーションを通して、本人の思いや希望を聞くように心がけるとともに、本人に意思を確認してから介助を行うようにしている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分に合わせて、一日の過ごし方や家事手伝いやレクリエーションが行えるように支援している。	利用者がそれぞれのペースで生活出来るように職員は寄り添った支援をしている。編み物をしたい方がいれば家族に毛糸の準備を依頼するなど、普段の会話の中から利用者のやりたいことを引き出し、本人や家族等の要望があれば出来る限り対応するよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に一緒に着替えを準備したり、季節や室内の温度に合わせた身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を楽しむことができるように、体調や力に合わせて食事形態や提供方法を配慮している。また、食器拭き等をお願いすると快く引き受けて下さっている。	おかずは配食サービスから当日調理したものが届き、ご飯は事業所で炊いて温かい食事を提供している。行事食など食を楽しめる機会を設けている。アレルギーや禁忌食は全職員が把握できるよう個別にカードを作成し、体調に合わせてお粥やミキサー食など、一人ひとりに合わせた形態で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分量を記録し、把握に努めている。水分摂取量が少ない場合には、利用者の好みや飲みやすいゼリー状にするなどして提供している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の口腔ケアの様子を見届け、できない場合は介助をしている。義歯装着の利用者は、洗浄剤で消毒している。	自立支援を心掛け、出来るだけ自分で行うように声掛けをしている。介助が必要な方には毎食後に職員が手伝い、口腔内の変化の確認もしている。受診が必要な場合は家族等に確認し、受診介助を行っている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて排泄の失敗を防ぐとともに、利用者の状態や力に合わせて移乗や立位、着脱の介助を行っている。	排泄状況は個別にチェック表に記載し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、職員間で話し合い、声掛け誘導やおむつ交換など個別に排泄ケアを行い、失禁を出来るだけ減らす努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表の記録によって、利用者の排便のパターンの把握し、水分量を調節したり、内服薬による調整を行っている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回入浴を提供している。利用者のその日の状態や力に合わせて入浴の仕方やタイミングを配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や生活パターンを配慮して、居室で過ごしたり、就寝できるように配慮している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報について、職員一人ひとりが確認できるように配慮するとともに、利用者の力に合わせて介助し、確実に服用できたかを職員2人で確認している。	服薬介助時は職員二人で必ずダブルチェックを行い、記録している。薬の変更があれば主治医や家族等と情報共有し、職員間では業務日誌に記載し、更に朝の申し送りで伝え、副作用が無いかなど観察を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ等利用者一人ひとりに役割分担をお願いしている。また、利用者の生活歴から趣味や特技を生かしたアクティビティを提供するように支援している。</p>		
49		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ドライブレクリエーションや散歩する機会を設けている。また、利用者や家族の希望に沿って外出ができるように支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と相談しながらドライブ時や外出時に買い物ができるように配慮している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や知人からの面会や電話を取り次いだり、手紙を読んであげたりしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ダイルームや廊下の掲示物に季節感を取り入れたり、折り紙ギャラリーを作って、利用者が居心地よくなるように工夫している。</p>	<p>日中の殆どを共有スペースで過ごす利用者が多く、掃除を徹底し換気を行い毎日手すりやテーブルを消毒して、清潔な環境である。席の配置を工夫し、利用者の表情を汲み取って温度管理や光の調整などを行い、季節感のある手作りの掲示物を飾り、過ごしやすい空間作りを行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、レクリエーションやおやつ作りを楽しくできるように工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや時計など利用者が自宅で使い慣れた物を持参していただいている。また、家族の写真や贈り物、自作の作品等を飾っている。	入居時に利用者や家族等から、これまでの生活の情報を収集し、慣れてもらう為に馴染みの物や写真など持ち込めるようにしている。転倒しないように物の配置に気を配り、掃除が行き届いてあり、清潔な環境のもとで安全に生活出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ダイルームや廊下は車イスですれ違ってもぶつからない広さがあり、ぶつかるような物をおかないように気をつけている。		